

はじめに

がんに罹ってしまった患者さんやご家族は、治療経過の中で、様々な悩みや負担を体験します。2003年に、厚生労働省の研究グループ「がんの社会学」に関する研究グループで実施した「がん体験者の悩みや負担等に関する実態調査」では、悩みなどの一端が明らかにされました。調査結果の概要は、「がんと向き合った 7,885 人の声」としてまとめられました。この実態調査が、多くのマスメディアに取り上げられたこともあって、全国的に関心も高く、報告書は増刷を重ねています。また、本書は、静岡がんセンターのホームページ上でも公開されています。

研究グループでは、患者さんやご家族の声を生かし、様々な悩みや負担を少しでも和らげることを目標に、解決策をまとめた冊子の作成にも取り組んでいます。本書は、その第1集にあたります。調査結果では、がん治療に要する高額の治療費や就労に対する不安を多くの方が訴えていましたので、最初に、治療費、経済、就労の問題を取り上げました。

本書の作成にあたっては、実態調査の結果とともに、本研究の一環として、静岡がんセンターが取り組んできた「がんよろず相談」での相談結果も参考にしました。執筆は、実際に相談にあたる2名のソーシャルワーカーと看護師が担当し、全国のがんの専門家や患者会、支援団体の方々のご意見に基づき、準備を進め、まず、静岡県内の様々な社会福祉資源を資料として添付した県版を作成しました。これを、県内に配布するとともに、静岡がんセンターのホームページにも公開し、さらに、研究グループの方々からもご意見をいただきました。本書は、そういうご意見をもとに、全国版として作成したものです。全国のがんの患者さんに役立てていただくことを望んでいます。

静岡県立静岡がんセンター総長 山口 建